

「資本コストや株価を意識した経営」に取り組む企業が80%以上に増加

— 日本IR協議会 会員企業を対象にした調査結果から —

一般社団法人 日本IR協議会（会長：手代木功 塩野義製薬株式会社 代表取締役会長兼社長 CEO）は、「資本コストや株価を意識した経営・IRの進展」に関するアンケート調査をテーマに株式を上場している会員企業を対象に実施したアンケート調査の結果をまとめました。

この調査は、東京証券取引所がプライム市場・スタンダード市場上場企業に要請した「資本コストや株価を意識した経営の実現」について、取り組み状況や情報開示・対話などIR活動の進展をたずねることを目的に実施したものです。調査期間は2024年5月20日～6月14日で、日本IR協議会会員企業のうち上場企業614社に調査票を送付し、187社から有効回答を得ました（回答率30.5%）。主な調査結果は下記のとおりです。

1. 80%以上が「資本コストや株価を意識した経営の実現」に取り組み、開示や対話も進展

「資本コストや株価を意識した経営の実現」に向けて、段階ごとに状況をたずねたところ、「現状分析」（回答企業の89%）～「計画策定」（同84%）～「計画開示」（同81%）～「実行」（同80%）と、回答企業の80%以上が取り組みを進めています。また、取り組みを開示している企業も各段階で70%前後に達し、昨年度から30ポイント以上増加しました。

2. 81%がROEを目標として意識、PBRへの意識も上昇

「取り組みを進めている」と回答した企業に、目標として意識する指標をたずねたところ、「ROE」（取り組んでいる企業の81%）が最も多く、「PBR」（同59%）が昨年度から18ポイント増加しました。実際の活動では、「収益性を高めるための施策の実行」（同86%）「資本コストを上回る資本収益性実現に向けた施策の実行」（同83%）が上位となりました。

3. 課題対応は中期的な時間軸を見込む

課題への対応見込みについて、「2～3年以内」が45%、「4～5年以内」が15%となり、中期的な課題として捉えて取り組む企業が多いことがわかりました。一方で、「5年以上」や「5年以上かけても難しい」と回答した企業も25%近くを占め、課題対応の難しさも表れています。

4. 株主や投資家からの要望や関心取り組みを進める要因に

取り組みを進める上で影響をもたらす要因として、「株主・投資家からの要望の頻度や内容」（回答企業の74%）、「東証の要請後の自社に対する投資家の関心」（同62%）が課題対応をしやすくしているという回答が多くみられました。社内の取り組みでは「IR部門による株主・投資家の声のフィードバック」（同87%）が最も高い結果となりました。

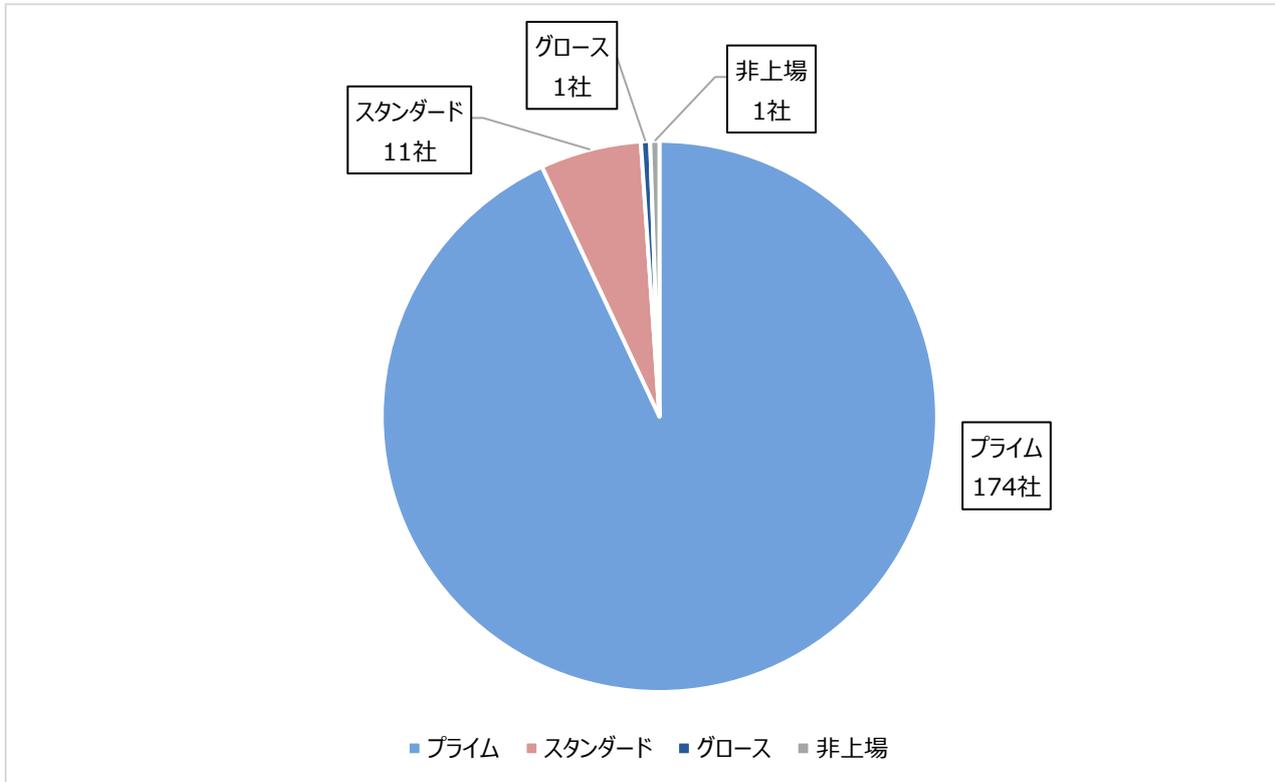
5. 取り組みの成果は「株式時価総額の向上」や「PBRの改善」

要請への対応を機に強化した活動によって得られた成果として、「株式時価総額の向上」（回答企業の48%）、「PBRなどの改善」（同38%）、「中長期視点の株主の増加」（同32%）が上位となりました。

今回の調査結果について、当協議会の佐藤淑子専務理事は「企業価値向上を目指す取り組みが進展し、開示や対話にも反映されています。今後も企業が開示や対話の内容を深めるとともに、投資家にも中長期視点での分析や判断が広がることが期待されます」と語っています。 *全回答企業の集計結果は、次ページ以降の詳細をご覧ください。

お問い合わせ先： 一般社団法人 日本IR協議会 事務局
電話：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677
専務理事（首席研究員）：佐藤淑子

回答した企業が上場する市場の内訳



※調査は日本IR協議会会員のうち上場企業を対象にしたが非上場企業からも1社回答があったため有効回答に含めている

※参考 回答企業のうち、プライム、スタンダード、グロース市場上場企業 186 社の ROE と PBR の状況

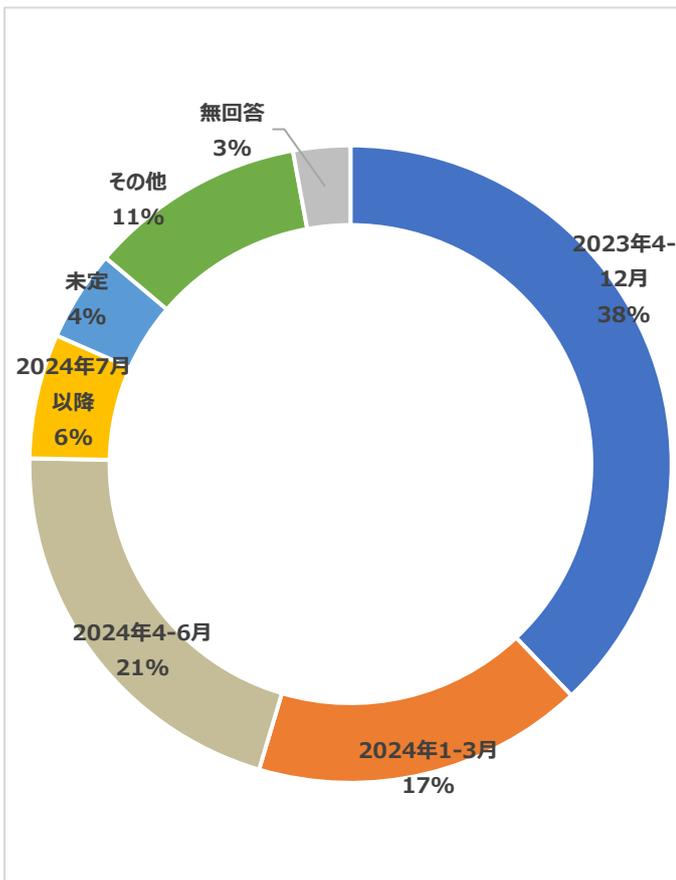
	PBR1 倍以上	PBR1 倍未満
ROE8%以上	82 社	17 社
ROE8%未満	39 社	48 社

※ROE：直近本決算の数値を基準にして算出、PBR：2024年4月月中平均を採用

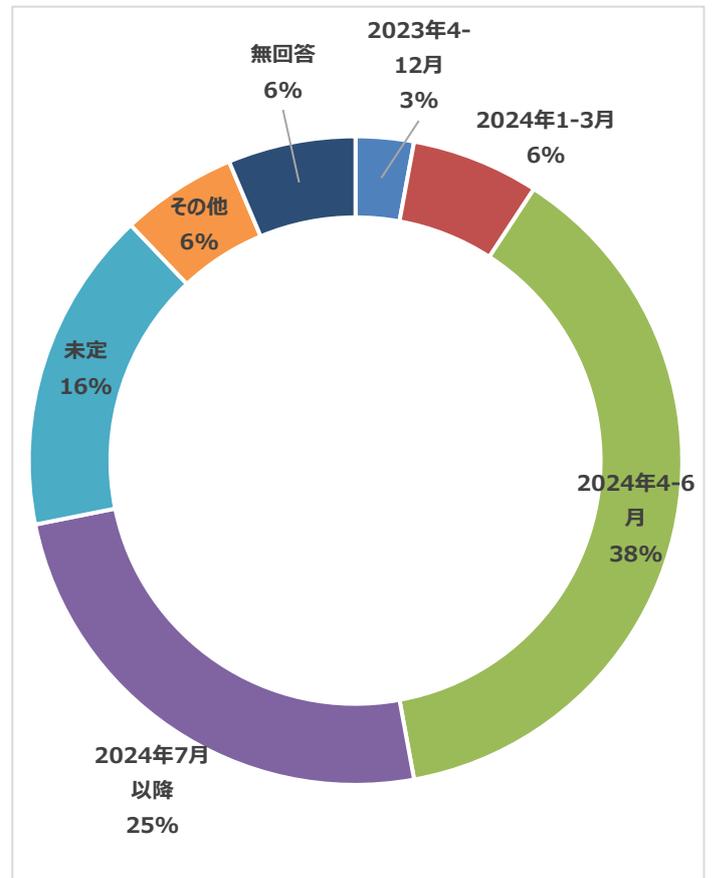
Q1 東証が要請した取り組みの進捗、開示または対話の状況についてお聞かせください (n=187)

	「取り組みを進めている」	「開示・対話している」
【現状分析～資本コストや資本収益性を取締役会で分析】	89%	72%
【計画策定～目標・計画などを取締役会で策定】	84%	73%
【計画開示～目標・計画などを投資家にわかりやすく開示】	81%	74%
【取組みの実行～計画にもとづき、資本コストや株価を意識した経営を推進・対話】	80%	67%

Q2. 取り組みの開示時期（アップデート時期）を教えてください (n=174)

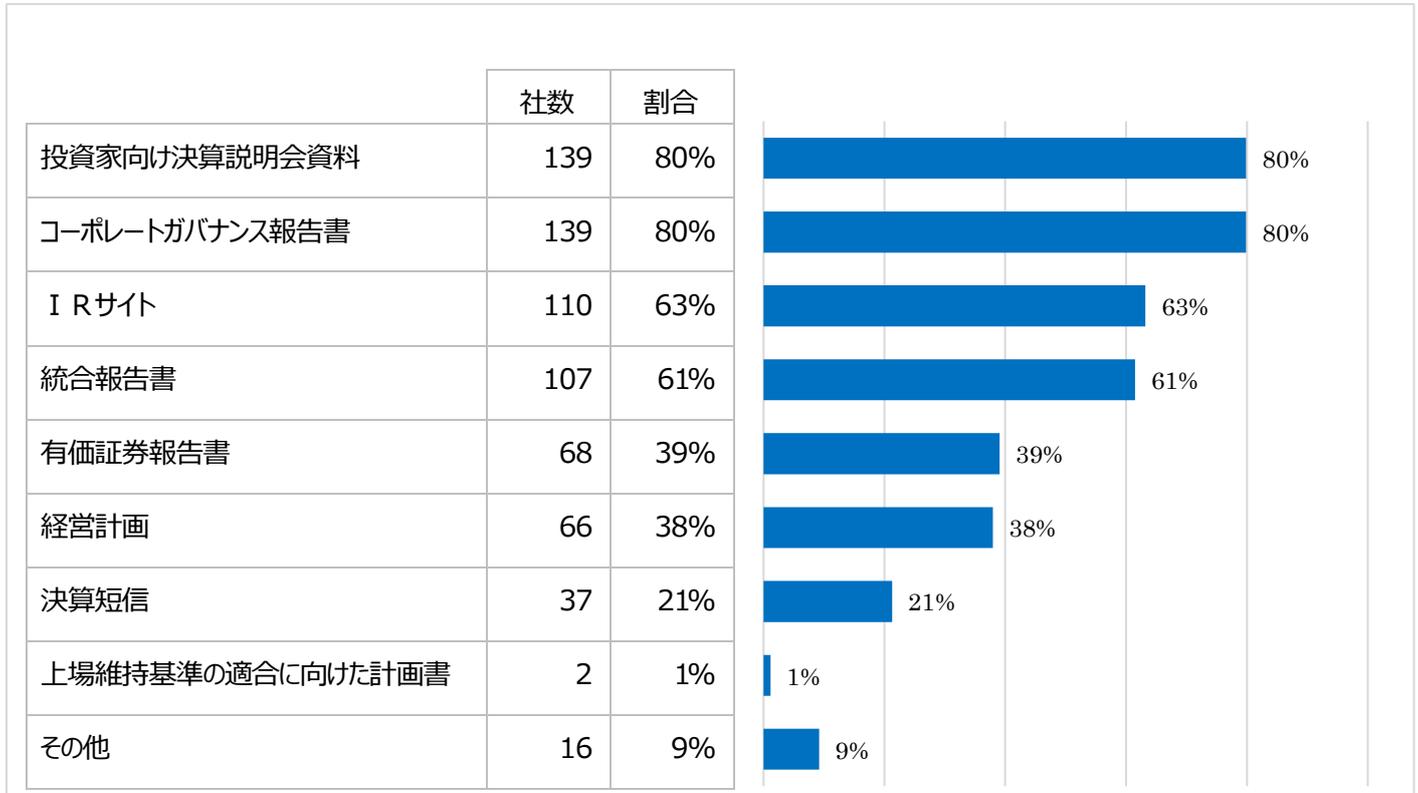


開示時期

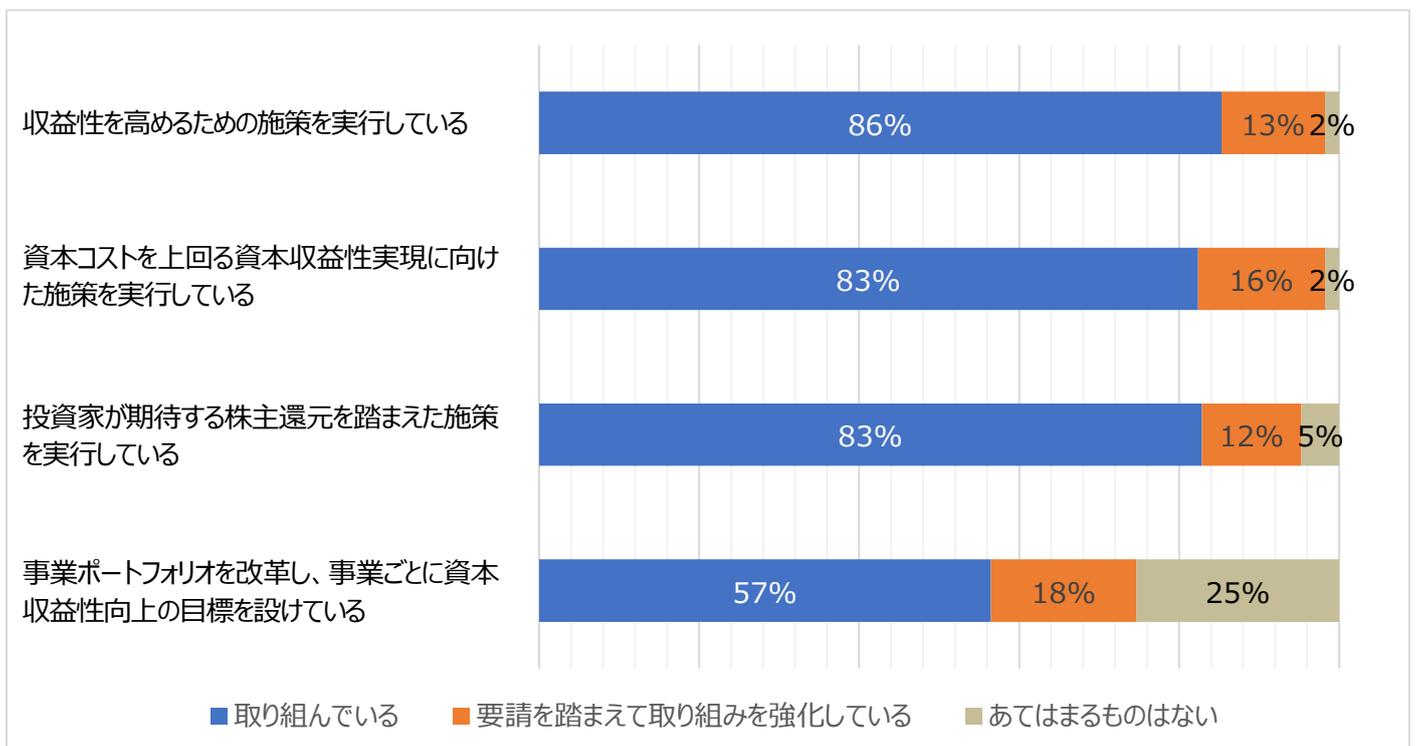


アップデート時期

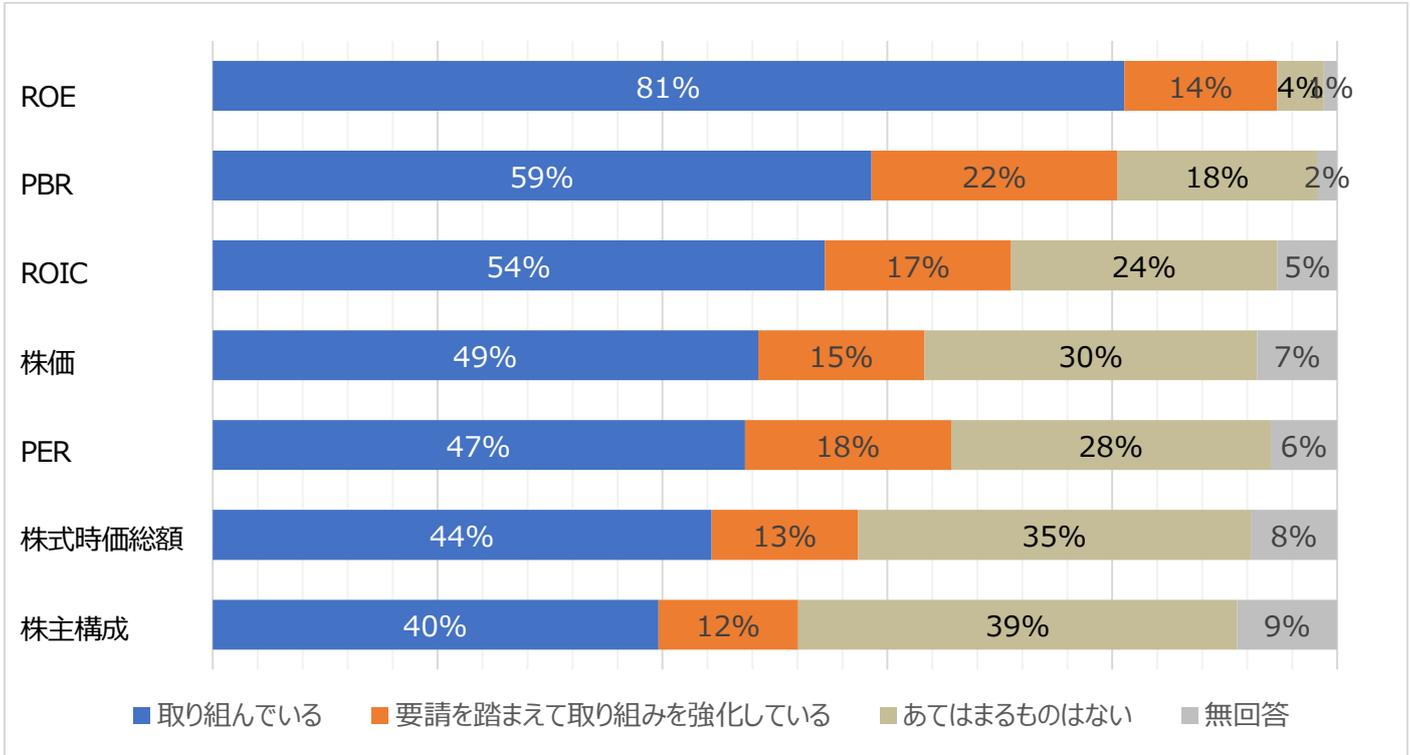
Q3. 開示場所・媒体を教えてください (n=174)



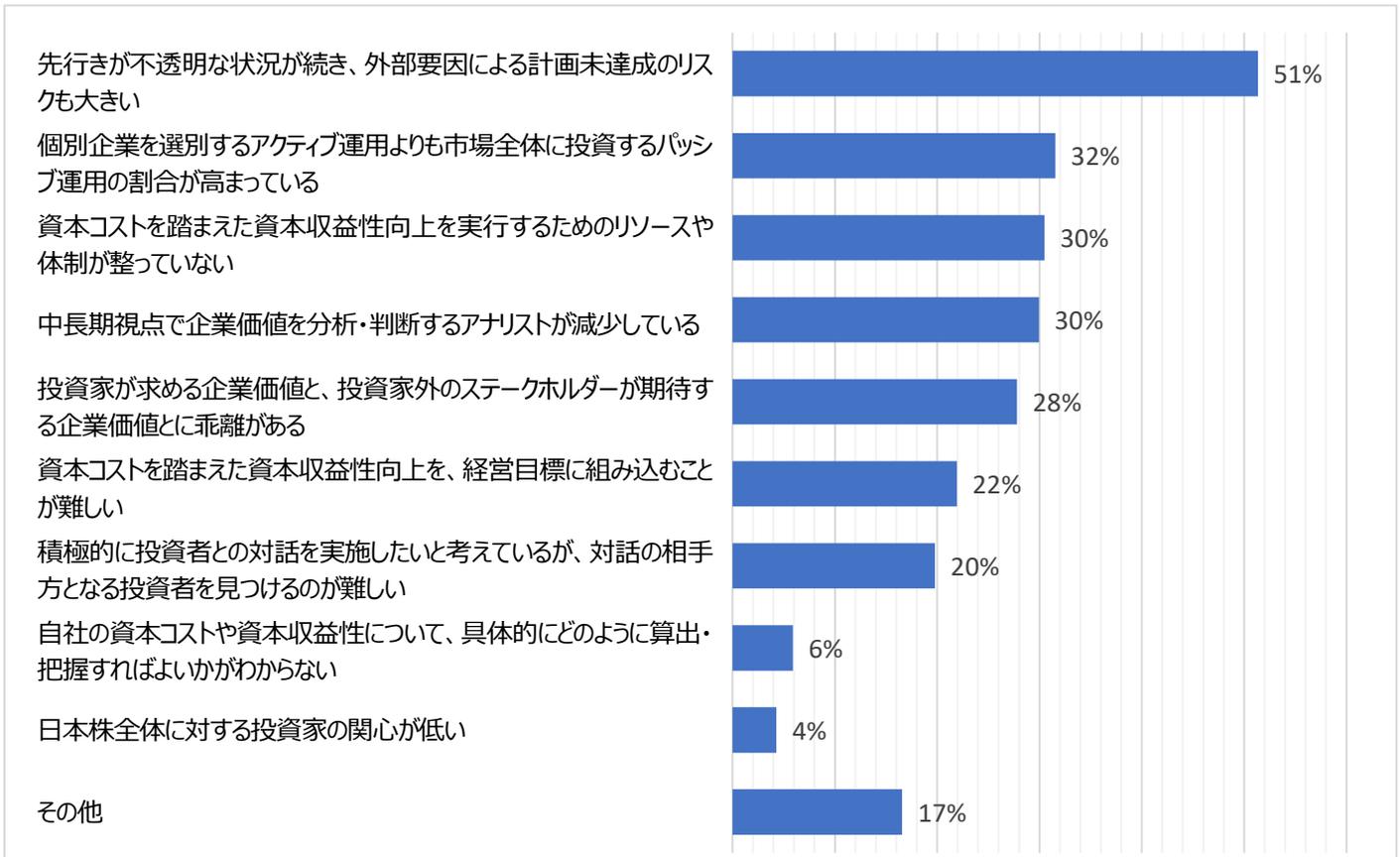
Q4-5 取り組みの実際について教えてください (n=169)



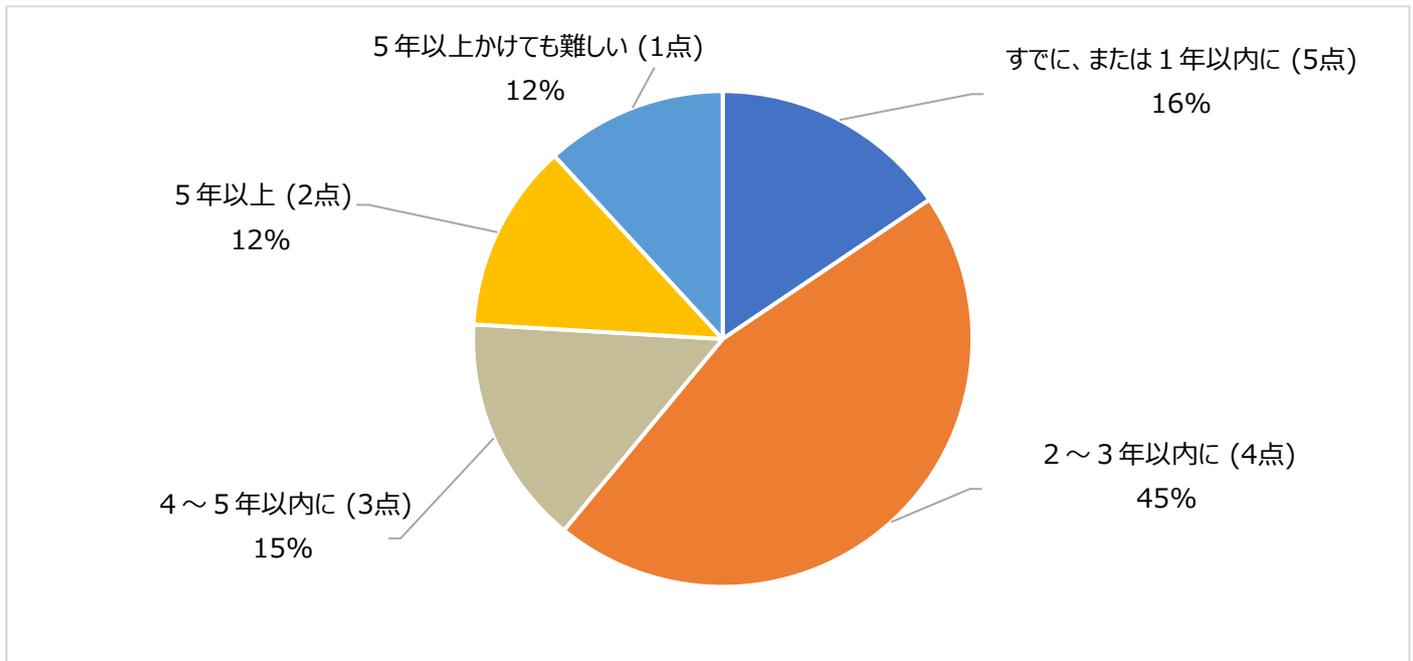
Q6.-7 目標として意識する指標について教えてください (n=169)



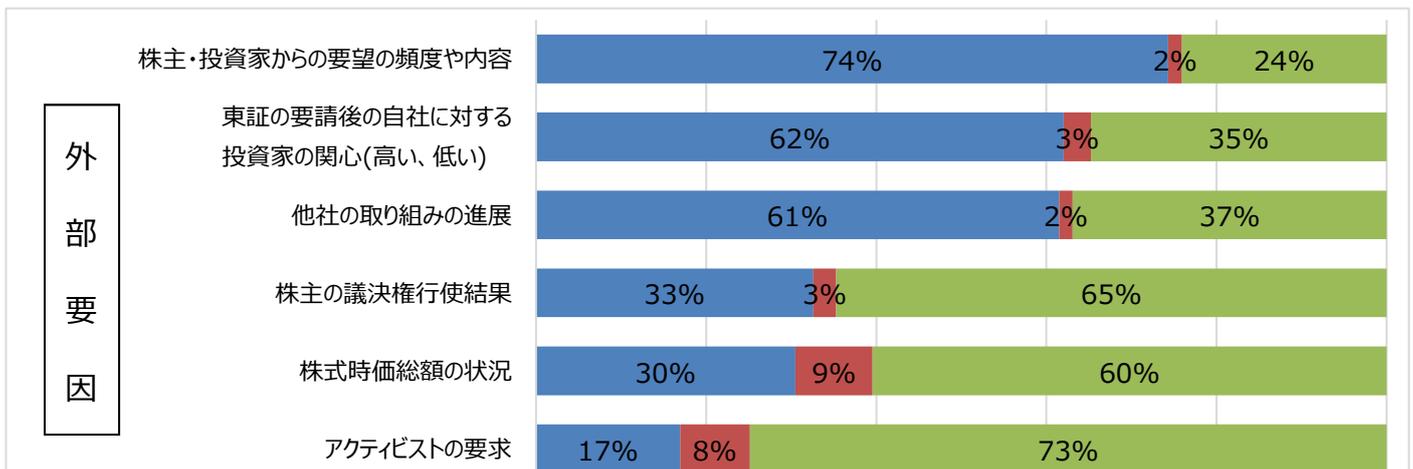
Q8. 取り組みを進めるための課題はどこにあると考えられますか (n=187)



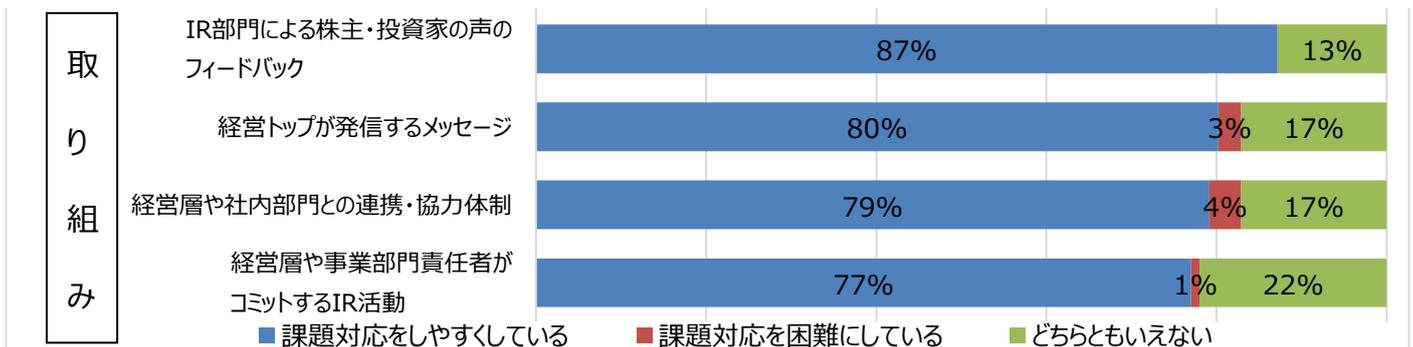
Q9. 取り組みを進めるための課題への対応は、5段階でどの程度進んでいると考えていますか (n=187)



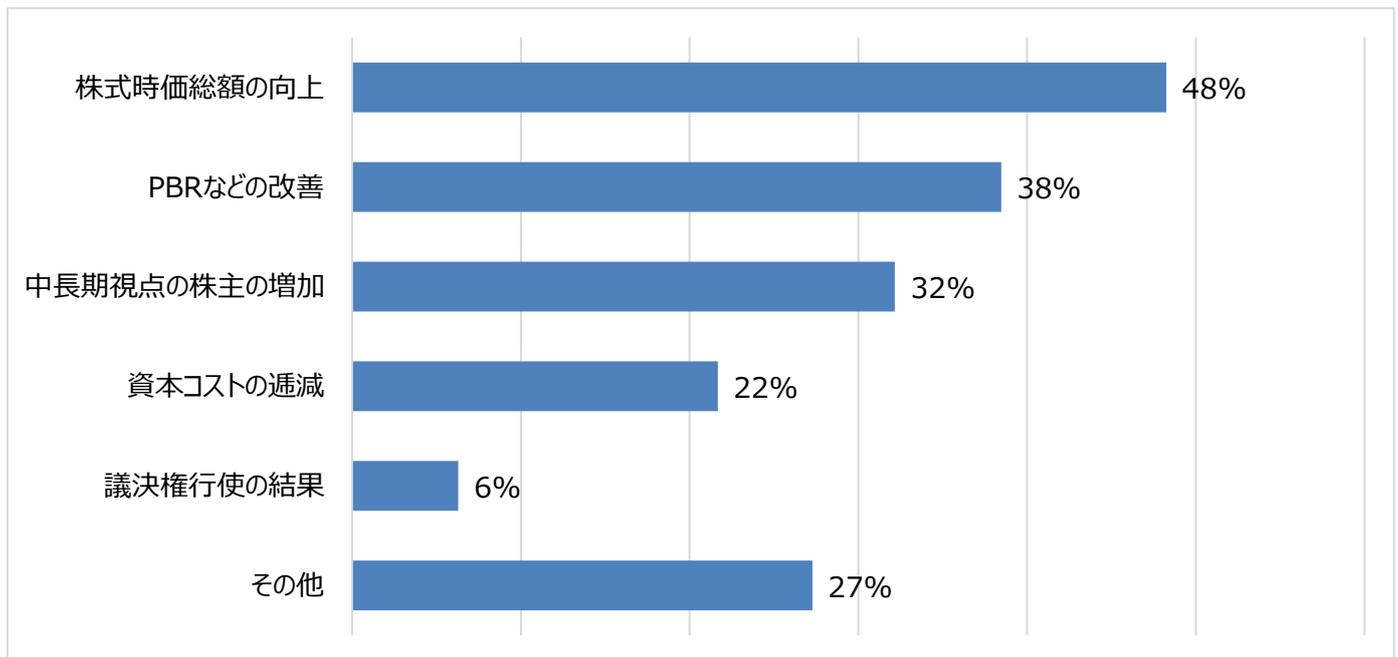
Q10. 以下の外部要因について、課題対応をやすくしているか、逆に対応を困難にしているか、比較的近いほうをお聞かせください。 (n=187)



Q10. 以下の社内取り組みについて、課題対応をやすくしているか、逆に対応を困難にしているか、比較的近いほうをお聞かせください。 (n=187)



Q11. 東証の要請への対応を機に強化した活動によって、一定程度得られたと考えられる成果をお聞かせください。(n=143)



以上